

IT21 の会（平成 20 年 9 月）第 123 回例会議事録

日時：2008 年 09 月 06 日(土) 14 時 30 分-16 時 30 分

出席者：10 名

場所：葺手第 2 ビル 5 階

配布資料：

- ・ 0809-0 （社）日本技術士会 CPD 行事参加票
- ・ 0809-1 IT21 の会 9 月例会プログラム
- ・ 0809-2 「都市計画－IT 面の現状と可能性について」資料
- ・ 0809-3 プロジェクトチームの呼称改定その他について
- ・ 0809-4 IT21 の会 12 期予算案
- ・ 0809-5 環境マネジメントセンター(EMC)講演会開催のご案内

議題：

- 14:30-14:35 資料確認
- 14:35-14:40 役員からの連絡事項
- 14:40-15:15 IT21 の会・外部発信の推進について 第 2 回
- 15:15-16:05 「都市計画－IT 面の現状と可能性について」
- 16:05-16:15 質疑応答
- 16:15-16:25 初参加の方の自己紹介

議事：

1.議事及び資料確認（西垣栄氏）

2.役員からの連絡事項（会長 加納幸博氏）

(1)12 期会計予算案

会計担当役員が不在な為、会長より以下の報告があった。

会の運営資金は、前年同期と比較して潤沢になった。

理由は ML のプロバイダーへの代金を前期に支払ったこと、HP のプロバイダーとの契約を見直したことで固定費削減を達成できたからである。

大幅な余剰金を、会として有効活用するための検討が必要である。

予算の使い道として何点か挙げた。

一案としてレクリエーションがあったが、レク支出は会則に定められていない上に、200 人程にもものぼる会員数で「一部有志」に限定して支出するのは、会費の有効活用からみて公平性に欠ける。

Q:コピー代は予算から出すべきか。

A:懇親会費は本来余りを出してはいけないが、余ったらコピー代に充当するのが妥当ではないかと意見があり、その様になった経緯がある。

(2)プロジェクトチーム呼称改定その他について

業務委員会からの通達事項である資料0809-3が配布されプロジェクトチームに所属する技術士会非会員を、会員にすることを促進する必要がある。また、呼称の改定を検討する必要があるとのことである。

(3)MLについて

「外部組織からのMLでの例会やセミナー、イベント案内は特に規制しないものとする。ただし当会の例会開催日に重複しない事や当会案内が埋没しないよう充分配慮すること」以上に留意頂き、MLを利用して頂きたいとのことである。

(4)役員募集・合宿について

合宿は2月頃ではないかと思われるが、会員間のコンセンサスを取る必要がある。オブザーバーとして斉藤氏に了解を頂いている。
また、委員を現在募集している。応募があるまで逐次募集をかけていく予定である。

(5)環境マネジメントセンター(EMC)講演会の案内

プロジェクトチーム連絡函に投函されていた9月20日の上記講演会が行われることが案内された。

3.IT21の会・外部発信の推進について

(1)IT21の会 英語版HPについて(石井一夫氏)

A. 開設目的；

- a. IT21の会の存在とその活動内容を日本語をネイティブとしない方々にプレゼンスし、それを紹介するためのページを開設する。
- b. IT21の会の会員が外国人との交流があった場合などに、IT21の会を紹介する基礎資料にさせていただくことを目的とする。
- c. また、それをベースに会員の海外への情報発信など国際活動に活用していただけるようにする。

B. 具体的方針；

- a. 最小限英語のみで記述されたページにする。
- b. コンテンツは、 1) 見開きページ、2) IT21 の会の紹介ページ、3) 例会の講演タイトル一覧（最近のもの）、4) 議事録のサンプル（3、4 回分）、5) 問い合わせ先など、会を紹介する最小限のものとする。

また後の HP 委員などが更新をしなくても使用に耐えるものとする（更新を行わないことが前提）。

c. HP 作成は

- 1) 現在 IT21 の会で使用している XOOPS の wiki を利用。
- 2) XOOPS とは独立した wiki や blog 等の利用、が考えられる。

現在 IT21 の会で使用している XOOPS の wiki は、現在の日本語のページとは別に英語のみで構成されたページを作成することが難しい、という問題がある。また、wiki は一般にデザインの柔軟性に欠ける。blog では、Nucleus CMS が比較的デザインの自由度が高い。また、静的ページ作成専用の CMS に MODx があるがこれならば、比較的自由的なデザインで、更新や修正などが楽なページを構成できる可能性がある。

この中で次の意見が挙げられた。

- ・技術士の存在を外国人に知らせるべきなのではないか。
- ・IT21 の会が技術士会の下部組織としてはっきり分かるようにすべき。
- ・どの様なキーワードでアクセスできるのかが重要ではないか。

今後の進め方としてプロトタイプを作成し複数人の精査を受けた後にリリースする予定である。

また、生物工学部会の英語版 HP の事例が紹介された。生物工学部会では英語版 HP をもとに、外国人技術者と接触した結果、12 月例会に外国人講師を招聘する予定である。

(2)シンポジウム・論文集出版・マスメディア活用 etc…の推進（加納幸博氏）

シンポジウムを行うことや、謝礼を度外視して講師を呼ぶなどの案も出された。シンポジウムでは上級シスアド団体などとのコラボレーションなども考えられるとのことである。

ただ、謝礼は規定されているので会則の見直しも考える必要が出てくる。

また、本や pdf などで出版を行うことも考えている。

自分の仕事を秘密に触れない範囲で紹介するなどの案が出ている。

4.「都市計画－IT 面の現状と可能性について」（西垣栄氏）

序 自己紹介に代えて

第1部 都市計画とIT

1-1. 都市計画が扱う情報

土地、建物、人口、地価、権利者意向、既存の都市計画自体（都市計画図をはじめとする）等について収集、整理する。法令のチェックは適宜行っている。

そのために地図を使用することは常であり、収集、整理したものの分析結果として、地図に問題、課題を表現することも多い。現在はインターネットにより、地図などの土地情報を配信している自治体も多くなっている。

将来構想については、ダイアグラム表現のほか、地図上に表現することも多い。

本講演では港区の都市計画インターネット配信サービスを例にして、説明を行った。

1-2. 情報インフラ

・ビジネスシーンでは、CAD、インターネット等、それと気づかないぐらいにITの恩恵を蒙っている。

1-3. ITS：連携・融合しやすい分野

物の形として必ずしも如実ではないが、VICS（道路交通情報通信システム）、ETC（ノンストップ自動料金収受システム）、バスロケーションシステム等、ITS（高度道路交通システム）においてITは必要不可欠である。

ITは都市の重要な面である道路・交通と連携・融合しやすいといえる。

1-4. 国土交通省の動き

国土交通省は、「いつでも、どこでも、だれでも、その場で必要な情報にアクセスできる社会の実現」、「ITSを活用した世界一安全な道路交通の実現」、「東アジア共通IC乗車券の実現」等を推し進めている。

1-5. 都市計画学会誌（特集）より

「ビジュアルシミュレーション技術の発展」、「都市開発における景観シミュレーションの実践」について紹介を行った。

1-6. 都市計画がITに対してできること

テレワークやサテライトオフィスなどまちの要素として積極的に考えることは多い。また、ITに係わる事業者の集積を進め、まちそのものにしていくことをめざすことがある。これは企業・産業誘致、地域振興として重要なものである。

第2部 都市計画におけるシミュレーションの可能性

都市建築企画の業務・職務についてワークフローや用語を整理した。

容積（建築物の各階の床面積の合計）が大きいことが期待されることが多い中で、道路が容積に耐えられるかどうかのワークが重要となっている。これについて、容積と交通量との関係だけに絞ることができれば、シミュレーションは可能であり、また、所定の条件のもとで、科学的技術的に判断することが可能となっている。

5.初回参加者の自己紹介

初回参加者無し

以上（記載者：尾崎健一郎）